

なきごえ 4

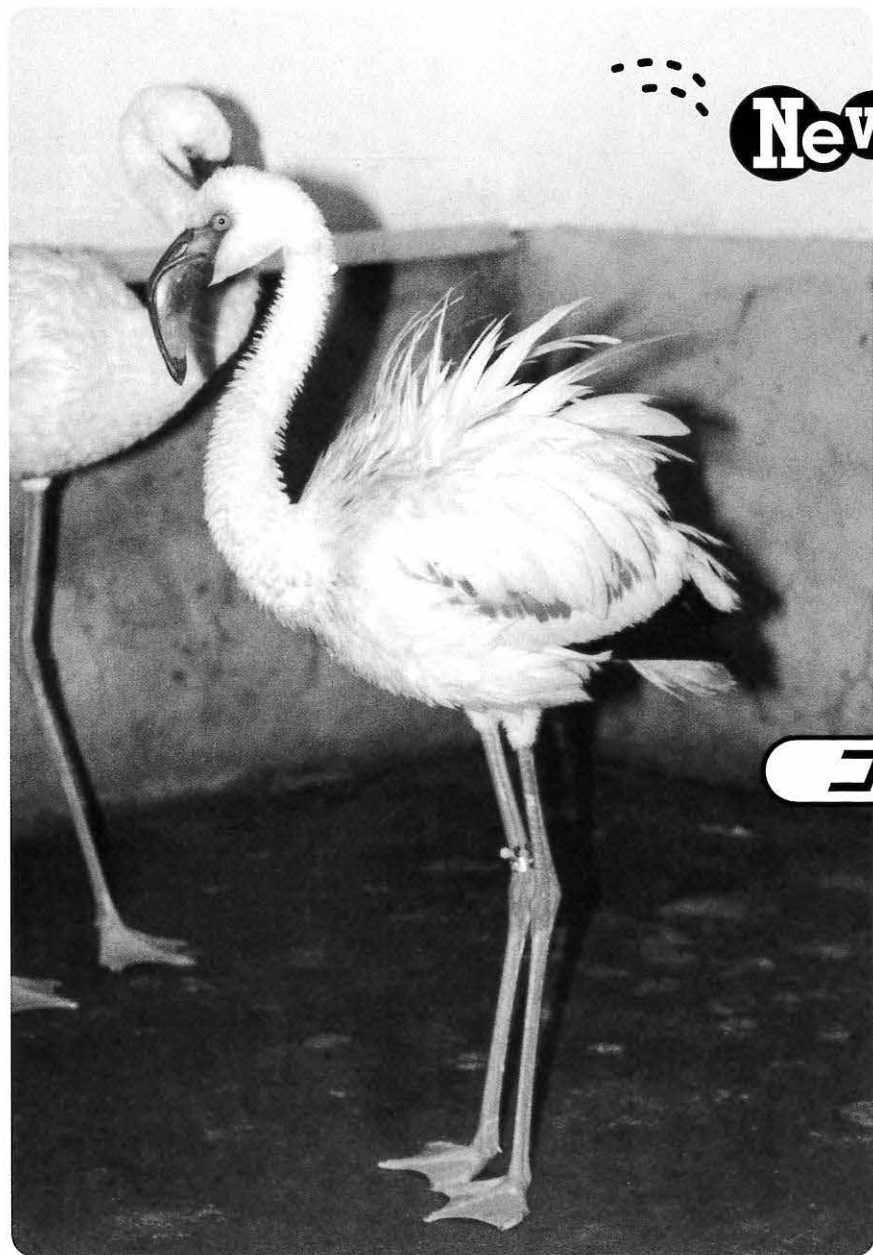
APR.

1999



CONTENTS

New Face	コフラミンゴ	西村慶太	②
動物とわたし	—絶滅の危機にある動物を描く—	相澤ときえ	③
カバーウォッチング	ワニガメ	西村慶太	
	「北のサンクチュアリ ウトナイ湖」	葉山政治	④
退職にあたり	—動物園37年の思い出—	浅田保夫	⑥
グラフZOO	動物の歯	野口秀高	⑧
	公園花だより	山元貞幸	⑩
	ZOO DIARY	竹田正人	⑪
	ZOO INFO	坂本全	
		中上正幸	



New Face

コフラミンゴ

(フラミンゴ目 フラミンゴ科)

背の高いフラミンゴの仲間では小型の種類です。まずはフラミンゴ舎に仲間入りしてその可憐な姿をお見せします。将来は現在建設中のサバンナエリアで展示する予定です。

(撮影・文：西村慶太)

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

あい ざわ
相澤ときえさん

(動物肖像画家)



— 絶滅の危機にある動物を描く —

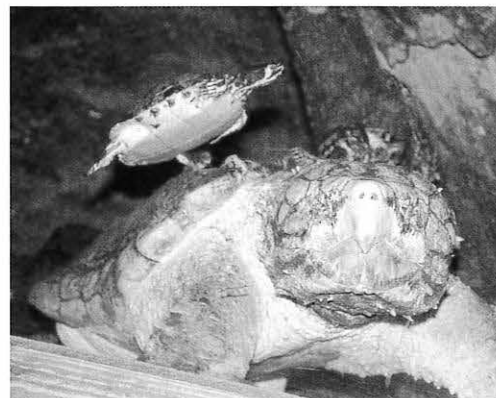
展覧会をするたびに『どうして野生動物の肖像画を描きはじめてのですか』という質問を必ず受けます。インドネシア・ジャワ島にある仏教遺跡“ボロブドゥール”で見た「ジャータカ」という仏教説話の浮き彫りにある動物たちの姿に1200年前のジャワの人達の深い愛を感じ、また、もしかしたら動物たちと一番仲良く暮す国ではと考えていたスリランカでは、象に対する人々の尊敬と同時に、奥地の村での野生象と村人の共生のむずかしさを知りました。

そんなことがきっかけとなり野生動物の現状を調べ始めて、特にこの200~300年間、ヒトは動物たちに対し取り返しのつかないことをしてしまっていることに、また自分が気付かず無知であったことに愕然としてしまいました。まず私にできることは絵を描くことです。7年前、それまで続けていた制作をすべて中断し、減少している野生動物の姿を肖像画というかたちで制作を始めました。『*レッド・データ・ブック』にあるすべて

を描くことは何度生まれ変わっても不可能ですので、まずは我々と同じ仲間の哺乳類を描いています。またあえて肖像画としたのは“種”である前に生きている一頭一頭に価値があり、いとおいしいからです。地球の上ではヒトの命も他の生き物の命も同じ重さのはずです。またヒトは地球の征服者であるかもしれないけれど、他の種を絶滅に追いやる横暴が許されるはずはありません。

科学の進歩と野生動物への迫害とは、正比例して20世紀の今日まで来てしまっています。やっと数十年前あたりから人々は過去の誤ちに気付きました。21世紀は“科学の進歩”をヒトのためにだけでなく、動物たちを守り、そっとしておいてあげられる技術にもしてほしいのです。だから私の野生動物肖像画は特に若い人たちや、子どもたちに見ていただきたいですし、また何より強く願うことは、たとえ一種でも二種でも、もうこの動物を描く必要はないという日が来ることです。(あいざわときえ)

*『レッド・データ・ブック』=国際自然保護連合(IUCN)が絶滅の危機にある野生動植物の現況を知らせるため発行している資料



Cover Watching

ワニガメ カメ目 カミツキガメ科
Macrolemys temminckii

北アメリカの川などにすむ巨大ガメです。一生の大半を水中で過ごし魚やさまざまな水生生物を食べています。天王寺動物園のワニガメはオスで甲長が60cm近くあります。

(撮影・文：西村慶太)

(財)日本野鳥の会・ウトナイ湖サンクチュアリ・レンジャー 葉山政治

飛行機で北海道に来ると、千歳空港に向か
って飛行機は太平洋から高度を下げてき
ます。その時に窓から見下ろすと煙突の立ち並
ぶ街のすぐ近くに緑の原野の中に三角形をした
沼と蛇行を繰り返す川が見えてきます。それが
勇払原野にある美々川とウトナイ湖と呼ばれる
沼です。



飛行機から見たウトナイ湖

皆さんは北海道の湿原という広い釧路湿原などを思い浮かべるでしょう。しかしほんの100年ほど前には、札幌から苫小牧にかけて釧路湿原よりも大きな湿原が広がっていたことをご存じでしょうか。数多くの沼が点在し、タンチョウも繁殖していた大湿地です。現在は札幌は人口100万人を越す大都市になり、周辺も住宅地や農地になりその面影はありません。かつての大湿原の最後で最大の沼がウトナイ湖なのです。

ウトナイ湖の水源は美々川という全長約20kmの小さな川です。この川も、現在では少なくなった手つかずの原始河川です。美々川の源流は千歳空港のすぐ近くの平地にある谷から湧いた地下水がその始まりです。無数の地点からの地下水を集めて美々川は蛇行を繰り返してウトナイ湖に達します。川の岸边は人工の護岸ではなく、川沿いはヨシやマコモ、少し高いところはハンノキそして、やや乾いたところにはミズナラやヤチダモの林になっており、湿原から林と移り変わる川本来の姿を見せています。

豊かな自然の残ると言われている北海道でも数少ない人手の加わっていない川なのです。そしてウトナイ湖も自然のままに残された沼なのです。



湿原のイジマルリボシヤンマ

美々川やウトナイ湖にはよくニュースなどで取り上げられる絶滅に瀕した動植物やタンチョウのようなスターはほとんどいません。しかしこの場所は、かつてあった大湿原の生物相がほとんどそのままの形で残っている場所です。他の地域では数が少なくなってしまった植物や昆虫が普通に見られる場所です。かつて湿原環境に生息していた野生動植物の箱船のような存在です。

この沼の北岸に建っているのが、ウトナイ湖サンクチュアリのネイチャーセンターです。ウトナイ湖サンクチュアリは財団法人日本野鳥の会がウトナイ湖と周辺の自然環境の保全のために作った、日本第1号のサンクチュアリです。サンクチュアリの設置は1981年、その後国設特別鳥獣保護区、続いてラムサール条約登録地になりそのエリア内は法的にも、国際的にも保護されるようになりました。ラムサール条約の登録地にもなっていることからわかるように、ウトナイ湖は水鳥を中心とした鳥類の渡りの中継地として重要な場所です。現在ウトナイ湖で記録されている野鳥は257種、3月には3万羽を越えるガンをはじめとした多数のガンカモが羽を休めます。野鳥の会では、ウトナイ湖での、環境教育や利用と保全のための事業や調査を行うとともに、その環境に影響を及ぼす様々な開発や公共工事に対して周囲の市民



春のマガンの群

団体とともに取り組んでいます。

このようにサンクチュアリのエリアは手厚く保護されていますが、湖岸に立って周りを見渡すと工場の煙突や高压線、高速道路がすぐ近くに見えます。周りは国道や鉄道そして高規格道路に囲まれています。周辺では宅地や軽工業用地としての土地利用も進行中です。こうして周辺から徐々に孤立しつつあるのが現状です。孤立化した環境においては、そこに生息する生物の遺伝的な多様性が時間とともに失われてしまうおそれがあります。せっかくの箱船がだめになってしまうこととなります。同様のことは国内の多くの野生生物の保護対象地域で起きている問題でしょう。外国のように十分な面積を保護地区に指定することができれば問題はありませんが、人口密度の高い日本ではなかなかたやすいことではありません。せっかく多くの方の賛同を得て設置された保護区や公園がいつの間にか寂しい状態になってしまっていないか。一見そうでなくとも、目に付きにくい昆虫相が変わってしまったり、植物が周辺から侵入した帰化植物に置き換わっていたりという事はよくあります。

この状況を解決するには、保護すべき地域の周辺における土地利用のあり方を見つめ直す必要があります。保護地域の周辺で人間の活動と自然環境との折り合いをつけて上手な利用法を探ることです。幸いウトナイ湖サンクチュアリは約500ヘクタールというまとまった面積があり現在でもまだ、多様な自然環境が残されています。最近出された本でも、支笏湖周辺のヒグマが日高地方の個体群と交流をする

唯一の連続した回廊になっていることが言われています。まだ手遅れではないのです。

さらにウトナイ湖と太平洋の間には、勇払原野と呼ばれる広大な原野が広がっています。その面積は東京の山手線の内側よりも広い面積です。その場所は、苫小牧東部工業基地、通称苫東地区と呼ばれている場所です。そこはかつて開拓の手が入った後、工業用地として土地が確保されましたが、産業構造の変化から、ここ30年ぐらい放置された場所で、地域本来の自然環境に戻りつつある場所です。ここでは、現在新たな土地利用の模索がなされていますが、その際、土地利用の発想を転換してみることはどうでしょうか。その一部を自然環境の保全のための場所として確保することができれば状況はかなり改善されるでしょう。この地域には弁天沼と呼ばれる沼をはじめとして様々な湿地環境があり、美々川やウトナイ湖周辺とよく似ている



弁天沼 撮影「加藤雅昭」氏

が、少しずつ異なった湿地があります。これらの地域をウトナイ湖と連続したものとすることによって、ウトナイ湖自身の多様性も確保されるでしょう。また現在、排水などの人為によって損なわれつつある湿地も水条件を整えてやることによって生き返るでしょう。その時にウトナイ湖という箱船から多くの生物が再び広がっていく事になります。保護区の意義の一つはそんなところにもあると思います。それはちょうど動物園や植物園がもっている、絶滅に瀕した動植物を増やして再び自然に戻すという事を生態系の規模で行うことにもなると思います。

(はやま せいじ)

退職にあたり -動物園37年の思い出-

飼育課・前首席主任 浅田保夫

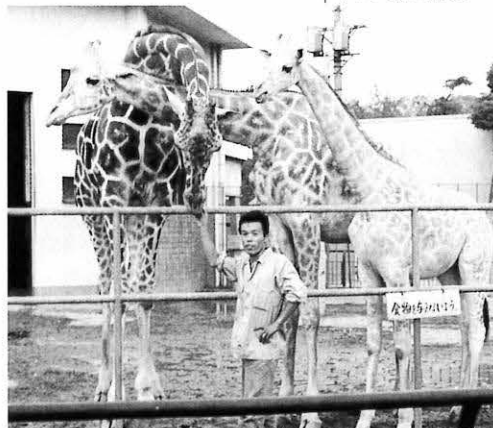


昭和39年小獣舎担当の頃、ホンドギツネとともに

私は、昭和37年(1962)5月1日大阪市公園部・大阪市立天王寺動物園に飼育係員として臨時採用され、同年11月1日、本務採用となりました。飼育係員として最初に担当したのは調理場の見習いでした。各動物の飼料配分を先輩から教わった毎日、慣れない仕事で先輩から餌が悪い少ないと注意された事がなつかしく思い出されます。日に日に動物の飼料、食べ物もわかってきました。1年間の調理場の見習い後、翌38年、最初に担当した動物舎は第一水禽(すいきん)放養舎で、コサギ、アヒル・カモ、ツル、ハクチョウ、ペリカン、コクチョウなど同居で飼育していました。飼料も今と違い、米、ぬか、フスマ、養鶏用配合飼料、大根葉、フナ、アジ、チリメンジャコなど給餌していました。朝の動物舎の掃除も今とは違いホースもなく池の水を杓(しゃく)ですくい土間にかけて洗いました。冬の寒い時期になると土間コンクリートも氷で凍て付き、滑って転んだ事もあり、たいへん時間もかかりました。飼料の運搬も今と違って、手押し車、馬力車、リヤカーなどに積み込み押して行きました。雨が降ると園内も今と違い、アスファルト舗装も少なく、地道で手押し車やリヤカーが地面にめり込んで動かなくなる事もあり、たいへん苦労しました。担当動物も替わり、オリックス、ニルガイ、ニホンジカ、トカラウマの世話をしてきました。当時は建物も古く、補修に追われる毎日で、餌箱も少ないので自作し、動物舎には暖房設備もないため、冬場には寝室に暖房材として敷ワラを多く入れたのち、夕方各動物寝室へ動物たちを収容する毎日でした。

ゾウ飼育初体験

昭和40年は、南園のキジ、アシカ、ニホンザルの担当でした。昭和41年には北園にもどり、小獣舎の担当としてヤマアラシ、イノシシ、アライグマ、キンカジュウ、スカンク、タヌキ、ホンドギツネの世話をしました。一番良く慣れていたので、市民からの寄贈で頂いた2歳半のホンドギツネで、世話もしやすく手で抱いて園内をよく散歩させていました。寒い日にはギツネをえり巻きのように首に巻いて遊ばせていますとお客さんから「よく慣れてますね」と言われたものです。今思えばいい体



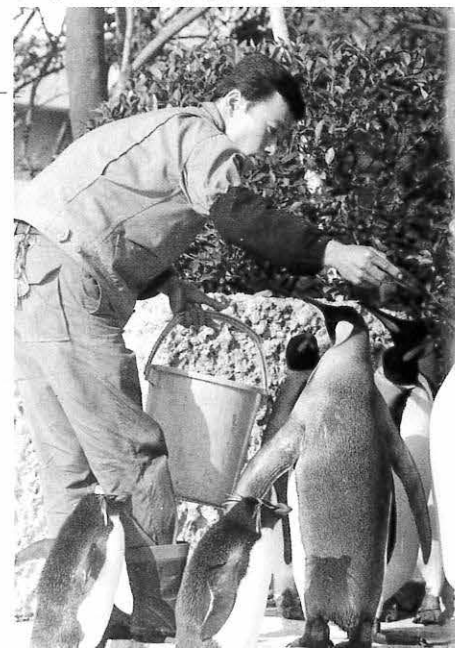
昭和45年、ペンギン担当の頃の給餌風景

昭和47年、キリン担当の頃

験でした。昭和42年には、南園で日本庭園(今のパードケージ“鳥の楽園”のある場所)で鳥類の世話をしながら、ゾウやキリンの見習いをし、先輩に付添ってもらい初めてキリン舎、ゾウ舎の寝室に入りました。キリンの方はよく慣れていました。放飼場にキリンを出して寝室の掃除や寝ワラの取替えなどいろいろと教えて下さいました。当時ゾウは春子・ユリ子の2頭で、年もまだ若く先輩によく慣れていました。ある日、先輩と一緒に寝室の中に入るかと言われました。ゾウはとて大きくて私は怖くて寝室に入る事は出来ませんでした。ゾウ2頭を放飼場に出してから寝室に入り掃除をしていますと、鉄格子の間から鼻をのぼしては鼻水を私の顔めがけて飛ばしてきた時もありましたが、ゾウも日に日に私に慣れてくれるようになり、放飼場で先輩と一緒に掃除をしたり、ゾウにリンゴやバナナなどを与えると喜んで食べてくれました。しだいにゾウにさわることできるようになり、私にとってはこの5年がゾウを飼育した最初の体験でした。

ペンギン飼育担当の楽しみ

昭和43年からペンギン、ツル、走鳥類、猛禽類を担当し、代勤でサイ舎、ヒョウ舎、オオアライグマ、イボイノシシ、バクを担当する事になりました。ペンギン舎は新舎で大きく、屋内外とも広く冷房設備もついていました。屋外放飼場ではフンボルトペンギン10羽、ケープ3羽、マカロニ2羽、ジェンツー2羽、イワトビ3羽、オウサマペンギン4羽の計6種、24羽が同居展示され、餌はアジを15kg給餌していました。池に餌をまいて与え



ると、フンボルト、ケープ、マカロニ、ジェンツーのペンギンたちは自分で食べてくれますが、イワトビ、オウサマペンギンは自分で食べてくれないので1日2回手でさし餌(ハンドフィーディング)していました。ただ、イワトビペンギンはよく慣れていたので食べてくれますが、オウサマペンギンは警戒心が強く食べてくれないので、部屋の隅に追い食べさせますが、嘴(くちばし)で腕を突かれ羽で足を叩(たた)かれたいへん苦労しました。しかし日に日に慣れてくると私のそばに寄って来て餌のおねだりをするようになりました。慣れてくると私もペンギンに愛着心が湧いてきました。朝の毎日の掃除給餌の時間が楽しみでした。

昭和44年、オウサマペンギンが園で初めて繁殖に成功しました。母親ペンギンは赤ちゃんを足の上に置いて下腹の羽毛にかくして見せませんが、私がそばを離れると、母親は赤ちゃんに口移しで給餌しているのを見る事が出来ました。赤ちゃんが鳴きながら餌のおねだりをすると、他のペンギンも横に寄って来ては赤ちゃんに餌を与える仕草はなんともいえない光景でした。

タンチョウの7年間連続繁殖

私はツルの担当もしました。マナヅル、カンムリヅル、オオヅル、ナベヅル、タンチョウの5種類で、昭和24年入園した1ペアのタンチョウのうち、雌が昭和46年死亡したため、昭和49年中国北京動物園から1歳3カ月の雌が入園したので同居させました。同居後、昭和51年には交尾が見られ、その年の5月25日に1卵の産卵がみられたにもかかわらず、破れてしまいました。それは本当に残念でしたが、5月28日には2卵目を産卵したので、今度はうまく抱いてくれることを祈っていたところ、6月30日、無事ヒナが生まれました。以後このペアは7年にわたる連続繁殖に成功する事となり、私にとっては一番嬉(うれ)しい体験でした。

ホッキョクグマ新ペアの繁殖

昭和58年からはクマ舎の担当となり、ヒグマ、ツキノワグマ、マレーグマ、ホッキョクグマを飼育しました。私にとっては初めての大型肉食獣で、緊張したものです。特にヒグマ舎の寝室は暗く、動物を収容する時は慎重に慎重を重ねて確認したものです。ホッキョクグマも雄と雌の収容時に寝室を間違えて入れてしまう事もあり、収容時はたいへん苦労しました。当時は雄も雌も4歳でやんちゃざかりですから食欲も旺盛で、給餌量は1頭当たり馬肉2.5kg、肉食用ソーセージ1kg、アジ500g、パン10個(1kg)、リンゴ2個、白菜200gで、行動も活発でした。昭和60年5月、初めての交尾が見られたので出産を考え、寝室のスリット状の穴にコンクリートブロックを積み上げ壁をつくり、産室を改造するとともに、部屋を暗くするためコンパネ板を部屋まわりに張りめぐらし、出産の準備をしましたが出産には至りませんでした。再び翌61年3月中旬から5月4日まで交尾が見られ、10月中旬より食欲も少し落ちてきたので、出産の可能性が高いと考えていたものの、産室に敷ワラの準備もせず、11月の出産予想もしていませんでした。11月10

日の朝、獣舎に入室する時、赤ちゃんの鳴声が聞こえてくるので、私はびっくりしてまさかと思いつつ獣舎に入ると、母親は生まれて間もない自分の子どもを口にくわえて寝室の中をうろろう動き回っていました。そのあと雄親を放飼場に出し母親の様子を見ていたところ、母親は子どもを口から離したので近よってその子どもをよく見るとすでに死亡していました。母親を放飼場に出し産室の奥を見ると2頭確認でき、そのうち1頭はまだ生存していたので毛布にくるみ病院に走りました。すぐに哺育器に入れ人工哺乳をしましたが、看護の甲斐(かい)もなく夕方死亡しました。このとき生まれていた子どもは3頭で、体重は360から400gありました。この時の失敗を糧(かて)に来年こそはと思い、野生では出産前になると雪穴を掘り絶食の状態でも2~3頭出産し、3~4カ月で巣穴から母親と一緒に出て来ることから、このような野生の環境に近いように飼育環境を設定して、来年に期待をたくしました。

本州以南、初のホッキョクグマ成育

雌雄ともに8才となった昭和62年4月初旬より5月3日までの約1カ月間、交尾を確認しました。61年秋同様、10月初め頃より食欲が落ち出したので、10月21日に産室を暗くするため、コンパネ板を産室周囲に張り付け、敷ワラを入れマイクも設置し、10月25日からは産室に収容、11月3日には産室に閉込め飲水だけで絶食状態にしました。雌は放飼場に出しきりにしました。その後マイクを通して観察を行っていましたが、11月16日赤ちゃんの元気な鳴声が聞こえてきました。その鳴声から2~3頭の赤ちゃんがいるように思いましたが毎日のマイクを通じての確認だけでは不安がつのりました。1週間、3週間と鳴声が聞こえてくるたびに、もしかしたら成功するかもしれないと嬉しさを禁じえませんでした。昭和63年1月14日、出産後59日目初めて産室内の子どもを確認しましたが、母親は落ちついていたので安心しました。子どもは1頭で、毛が真っ白くぬいぐるみのような元気な赤ちゃんで、日に日に大きくなり生後80日目パンやクマ用ベレットなど食べはじめるようになりました。以後順調に成育し、3月11日には放飼場にて母仔を初公開しました。出産後115日目でした。これが本州以南では初めてのホッキョクグマの繁殖成育の成功となりました。

天王寺動物園での時間を私と共有してきた動物たちに、ここであらためて感謝したいと思います。37年間にわたる飼育活動は私にとっては本当に幸せでした。おかげ様で3月末で無事に退職させていただきましました。最後に今後の天王寺動物園の発展と皆様のご健康ご多幸をお祈りして筆を置きたいと思ひます。

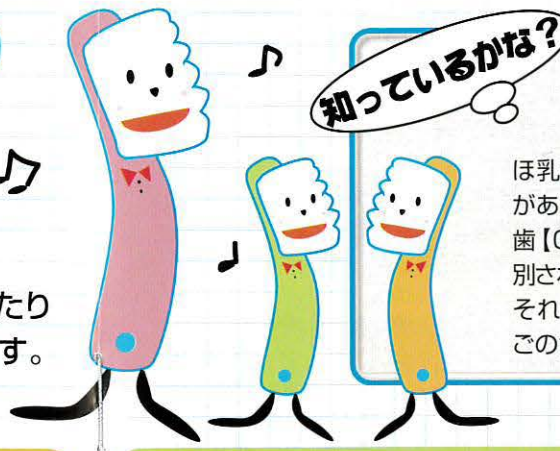
(あさだ・やすお)



昭和61年、11月10日に生まれたホッキョクグマの人工哺乳風景

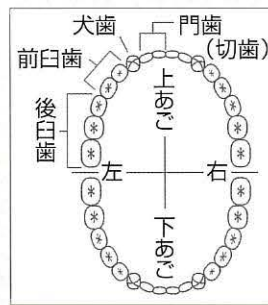
グラフZOO つなげてみよう 動物の歯

動物の歯は、非常に大切な消化器官の一部であり、食物を消化しやすいよう、砕いたり切り裂いたりして、細かくする役目を持っています。また、武器としての役目もあります。そこで、それぞれの歯の特徴をヒントに、各種の動物たちを線で結んでみよう。



ほ乳類の歯

ほ乳類の歯はごく一部をのぞいて上下にあごがあり、左右対称で、前から門歯(切歯)【I】、犬歯【C】、前臼歯【PM】、後臼歯【M】の4つに区別されています。歯のはえ方を表す方法としては、それぞれの歯の記号に(上あごの歯の数/下あごの歯の数)を示す歯式があります。



(撮影・文:野口秀高)



ライオン
ネコ(食肉)目 ネコ科



チュウゴクオオカミ
ネコ(食肉)目 イヌ科



アミメニシキヘビ
トカゲ(有鱗)目 ボア科



ミシシッピーワニ
ワニ目 アリゲーター科

肉食動物の歯



小動物、鳥などの動物を捕えるためにあごの端は細かくするどくどくがっています。爬虫類には歯式はなく、多生歯(多代性歯)で一生のうち何回も生え替わります。上あごの内側にも、左右一列ずつ歯が並び、これをあわせて計83本を数えました。



獲物を捕るため犬歯が発達しています。そして、鋭い臼歯で肉を引き裂きます。歯は合計30本。



小型の哺乳類、鳥などを食べます。肉を引き裂くのに鋭い臼歯が便利。歯は合計42本。



小動物、魚をエサとしており、歯はエサを引きさく役目があります。①と同様、何回も生え代わる多生歯で、歯式はありません。各あごに約20本ずつ生え、計79本ありました。

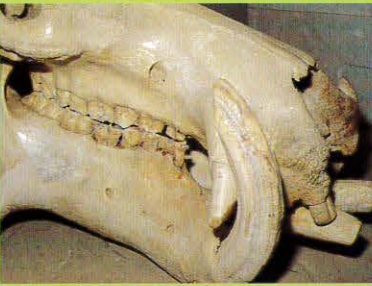
草食動物の歯

木の枝などを食べるため、歯がよく発達しています。かみ合う面が平らで、食物をうまくすりつぶすことができます。歯は合計32本。



歯式: I0/3, C0/1
PM3/3, M3/3

犬歯は武器として使うため強いです。この犬歯は一生のび続けます。歯は合計40本。



歯式: I3/1, C1/1
PM4/4, M3/3

ユーカリを噛みきるの攻撃用に、鋭い歯を持っています。歯は合計30本。



歯式: I3/1, C1/0
PM1/1, M4/4

なんでも食べる雑食動物の歯

食物をすりつぶせるように、かむ面がより平らになっており、肉食と草食の中間の歯の形をしています。歯は合計32本。



歯式: I2/2, C1/1
PM2/2, M3/3



アミメキリン
ウシ(偶蹄)目 キリン科



ニホンザル
サル(霊長)目 オナガザル科



コアラ
フクロネズミ(有袋)目 コアラ科



カバ
ウシ(偶蹄)目 カバ科

1(4) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

4月のこの季節となりますと、あらゆる生物が活動しやすくなります。草や花や樹木などが活発になります。そこで、植物と動物と一緒に合わせた名前を取り上げ、その名前の由来・意味などを植物図鑑より拾い上げてみました。植物は樹木、草、花、シダ類、菌類(キノコ)など。動物は大小獣類、は虫類、鳥、小鳥などです。植物の名前の順番は不同です。

◆「イヌビワ」実がビワの形に似ているからで、イヌ(犬)とはビワよりも劣ることからきている。食べられるが役にたかないので、「イヌゴマ」ゴマに似た分果をつけ、食用にならないため。

◆「オカトラノオ(丘虎の尾)」花序(花の並び)がトラの尾のようにのびて、日当たりのよい丘などにはえているため。



ハナキリン

◆「ハナキリン(ユーホルビア)」花の付き方がキリンの角に似ているところからハナキリンといわれる。

◆「トラノオ(サンスベリア)」トラの尾の模様のように、葉の裏側が赤いところからついた。



トラノオ

ほ乳類

◆「ネズミモチ」果実はだ円形で熟すと黒色となり、ネズミの糞(ふん)に似ているところからその名がついた。果実、ネズミモチとも薬用になるそう。

◆「ヒツジグサ」未(ひつじ)の刻、ほぼ午後2時頃に開花すると思われていたため、この名がついたよう。

◆「ネコヤナギ」花穂には長い毛があるため、猫の尾のようなので、ネコヤナギの名がついた。

◆「ネコノチチ」和名は果実の形が猫の乳首に似ていることから。

◆「イヌワラビ」ワラビに似て非なるものという意味。

◆「イヌホオズキ」ホオズキに似ているが役にたかないので、「イヌゴマ」ゴマに似た分果をつけ、食用にならないため。

◆「イヌハナヒゲ」犬の鼻毛で、その細かい草状からきている。

◆「イヌタデ」長い刺(き)し毛を持っているので、役にたかないタデ。

その他

タヌキマメ、ウマノスズクサ、ネズミノムギ、イヌナズナ、イヌガラシ、ハトムギ、カラスノエンドウ、◆スズメノカタビラ、スズメノエンドウなど他にもたくさんあるようです。

シダ類

ヤマイヌワラビ、クモノスダ、クジャクシダ、ヘビノネゴザ。

菌(キノコ)類

キツネノチャダイゴケ、キツネノロウソク、キツネノカラカサ、カニノツメ、スッポンダケ、ツルダケ、カバイロツルダケ。

私、今回図鑑の目次、索引を見ながら、なぜか感動いたしました。一言「おもしろい!」です。今まで室内で冬もりしていた観葉植物、草花、洋ランなど、遅霜に気をつけながら徐々に室外へ出して、徐々に日光に当てましょう。急に日光に当てますと、葉がやけどをおこしますので注意してください。

◆「スズメノヒエ」雀が食べられるからその名がついた。

◆「ヒヨドリバナ」ヒヨドリが8〜10月頃よく鳴く頃に咲くのでこの名がついた。

◆「ヒヨドリバナ」ヒヨドリが好んで食べるため。

◆「カラスウリ」瓜でも食べられると思われている。

◆「カモメラン」花形をカモメに例えたもの。

鳥類

◆「サギソウ」花形が白鷺に似ているところからついた。

◆「トキソウ」花が鶴(とき)色をしているためについた。

◆「ホトトギス」花模様をホトトギスの胸の斑(はん)点に見たてたもの。

◆「カラスウリ」瓜でも食べられると思われている。

◆「カモメラン」花形をカモメに例えたもの。

は虫類・その他

◆「ヘビイチゴ」蛇が食べる有毒の莓(いちご)と見られているため、実際には毒はないそうです。

◆「マムシグサ」蝮蛇(まむし)草で茎にマムシのような斑点があるため。

◆「ムカデラン」ムカデ状の葉のことからきている。

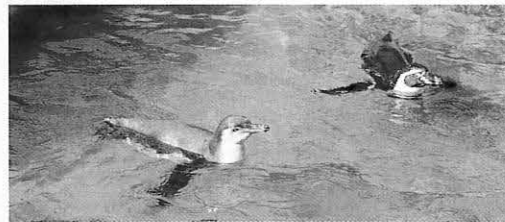
◆「クモラン」クモランの広がった根をクモの足に見たもの。

◆「カニクサ」草のツルで蟹(かに)を釣るところからきている。

◆「カニツリグサ」蟹釣草の茎でサワガニを釣ることからきている。

◆印は、天王寺公園内にて見られる植物です。ご来園の際にはぜひご覧ください。

- 2/2 ●ユリカモメを1羽保護しました。
- 2/3 ●ダイサギを1羽保護しました。
- 2/5 ●1月に保護したホシハジロなど4種4羽の鳥が元気になったので、自然復帰させました。
- 2/11 ●カイツブリを1羽保護しましたが、すぐに元気を取り戻したので自然復帰させました。
- 2/13 ●飼育担当者による手作り紙芝居「カバさんの1日」を行いました。この催しは今後も随時行う予定です。
- ホシハジロを1羽保護しました。
- 2/15 ●昨年夜行性動物舎で生まれたエジプトルーセットオオコウモリの個体識別(他の個体と区別する)のため、マイクロチップを装着しました。
- 2/16 ●昨年12月1日にふ化したフンボルトペンギンのヒナが初めて泳ぎました。また、個体識別のため翼帯を付けました。



- 2/17 ●米国ウッドランドパーク動物園から6頭のメスのシショザルが贈られてきました。6頭のうち1頭は当園で、残りの5頭は翌18日、4月にオープンする横浜市立よこはま動物園と浜松市動物園に送られます。



お知らせ

●春の動物と花のフェスティバル '99

期間 4月29日〜5月5日の日曜・祝日・休日

場所 動物園・公園

内容 公園・動物園のステージでマジックショーやぬいぐるみショー等を開催。この他動物園では、動物無料相談コーナーを開設します。

●天王寺公園・動物園写真コンクール作品募集

期間 4月29日〜8月31日

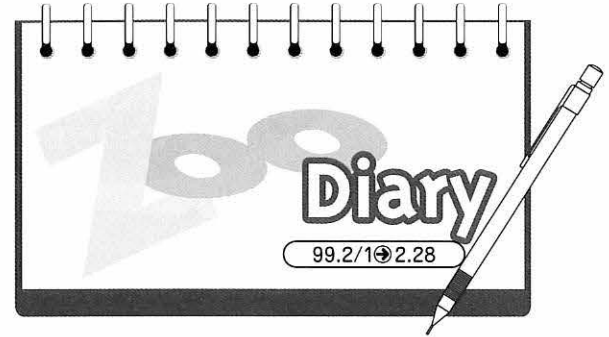
場所 動物園・公園(応募用紙設置)

●野鳥展

期間 5月11日〜5月30日

場所 動物園内展示室

内容 野鳥の写真パネル等の展示。



園、長野市茶臼山動物園城山分園に贈る予定です。

2/21 ●飼育担当者による動物園のおじさんのお話「カバさんの1日」を開催しました。担当者の1日の仕事をビデオを通して見てもらった後、ふだんは見られないカバ舎の見学をしてもらいました。

2/22 ●夜行性動物舎で展示中のハリモグラの爪切りを行いました。また、昨年生まれたフクロモモンガに個体識別のためのマイクロチップを装着しました。

2/23 ●ヒツジの双子が生まれました。

2/24 ●昨年11月25日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃんの性別鑑定を行いました。母親と仔を産室と寝室に分けて仔を捕まえて股間を調べたもので、性別はオスでした。

2/26 ●ホシハジロを1羽保護しました。

2/28 ●アカネズミ3頭が富山市ファミリーパークから贈られてきました。検疫終了後、夜行性動物舎で展示する予定です。



●ユリカモメを1羽保護しました。
●オウサマペンギンが産卵しました。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？ 動物園での世話の仕方は？ 仲間とは？ など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー

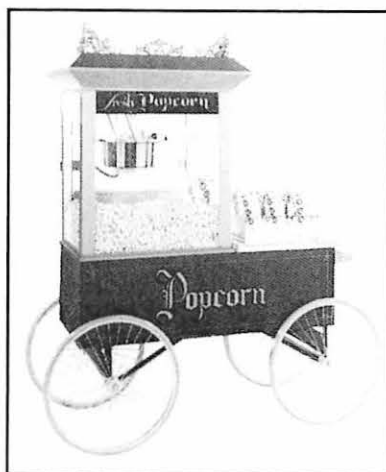
むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち 250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-6768-1151代表



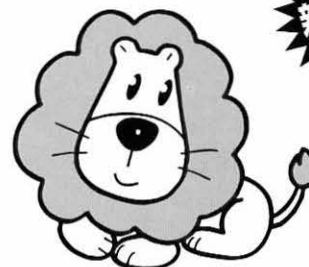
マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856
大阪府豊中市穂積1-10-30
(株)増田食品 TEL (06)6865-0165

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information



新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリム
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも連動、見たままのフレームでパチリ。

カメラの大林

桜橋本店 ☎6341-8091
阪急三番街店 ☎6372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子【編著】 ●新刊
3,500円+税 ●限定1000部
狼と犬と猫の生態を研究し、動物文学をはじめて世に紹介した平岩米吉の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を娘の眼から深く描く。
夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわせ、動物画家・大崎善司、日本好きのスタール博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼
●2刷出来 2,500円+税

犬の生態
●6刷 2,000円+税

犬の行動と心理
●4刷 2,000円+税

私の犬
2,200円+税

猫の歴史と奇話
2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]

174,757円+税 ●限定300部(分売不可)
南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

築地書館 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL03-3542-3731 FAX03-3541-5799 (発送料一律400円)
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address= JDH07647@niftyserve.or.jp

新作

貸出用「楽しい天王寺動物園」
ビデオ 19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……

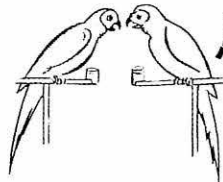


オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)6771-0201



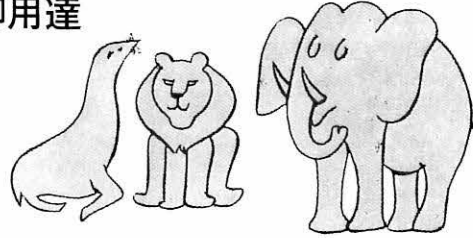
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ指定会社)
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話06-6762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL06-6771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-6771-7110



..... LOTTE

みんな大好き

コアラのマーチ

〈チョコレート〉 〈ストロベリー〉

365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、カルシウムの量を600mg (成人1日あたりの所要量) までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



雪印毎日骨太

300ml・100円／希望小売価格 (税別)



ほんとに楽しいネ!

中央デッキ下

一日、愉快地のしめる

◎園内2カ所 (中央デッキ下・南園高架下) に、各種のりものがあります。



南園高架下

久竹娯楽株式会社
TEL (06) 4397-0100 (代)

編集委員

井坂 進 / 中尾啓一 / 石井 等 / 中川哲男 / 藤田四郎 / 長谷川敏昭 / 長澤英資 / 山崎道正 / 榎原安昭 / 森本委利 / 高橋雅之 / 市川久雄 / 中上正幸 / 萩原祐二 / 勇 二 / 坂本 全 / 竹田正人 / 高見一利 / 山元貞幸 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 村上勇一 / 西村慶太 / 油家謙二